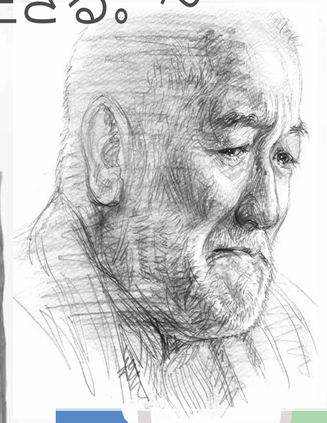
OMOI

-1934～2014-

～思いの交流。普通に生きる。～

米倉斉加年記念館



郷土の偉人を顕彰する課題にあたって、１９３４年福岡県福岡市中央区赤坂に生まれた米倉斉加年氏の記念館を提案します。彼は大学まで同地で暮らし、学生演劇を経て、東京に上京し、演劇人として活動するとともに絵本作家として国際的賞を受賞するなど様々な分野で活躍した。彼が生涯を通じて標榜したのは『普通に生きる』という事で、役者スタイルとしてもライフスタイルとしても ¨ 普通に生きる ¨→¨ まともに生きる ¨ という事を語っていた。２０１９年の現代において世界や社会は戦争や紛争、格差や差別など様々な問題に直面していて ¨ 普通に生きる・生きられる ¨ という大切さや困難さが常に問われいる状況です。そうした中で戦中戦後の８０年を生きた、普通の人としての彼の体験や思いは今とこれからを生きる人々に共感・共振するものと考えます。そこで私は『米倉斉加年記念館』を来館者の思いの交流の場として提供したい。

・設計にあたって

記念館として意味を持つには米倉氏と来館者の生きるという思いの交流の場とならなければならないと思った。

・各階のテーマは

1 階→時代への思い

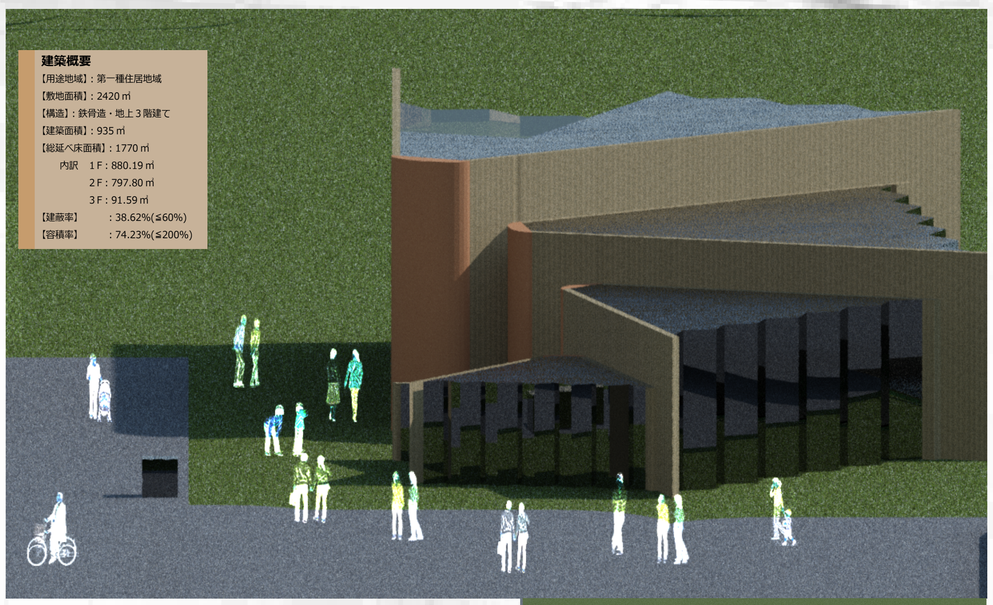
斉加年さんが生きた戦中･戦後の 80 年の生涯を歴史や社会とともにたどる。

2 階→自己表現への思い

役者、演出家、絵本作家、挿絵家、エッセイストなどの個人のさまざまな活動を伝える。

3 階→故郷への思い

オープンスペースとしての劇場を核に展望スペースとともに地域に開かれた思いを空間で具現化する。



建築概要

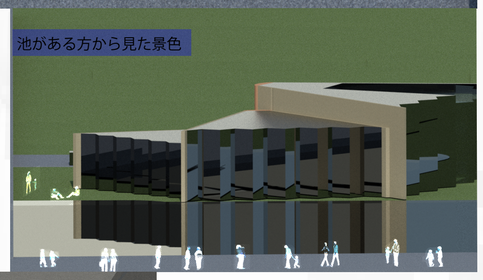
【用途地域】：第一種住居地域
【敷地面積】：2420 ㎡
【構造】：鉄骨造・地上３階建て
【建築面積】：935 ㎡
【総延べ床面積】：1770 ㎡
内訳　1Ｆ：880.19 ㎡
2Ｆ：797.80 ㎡
3Ｆ：91.59 ㎡
【建蔽率】　：38.62%(≦60%)
【容積率】　：74.23%(≦200%)

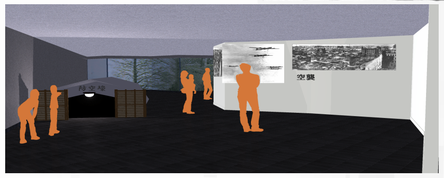
ロケーション

〒810-0043
福岡県福岡市中央区城内１

福岡城裏に建てる思い

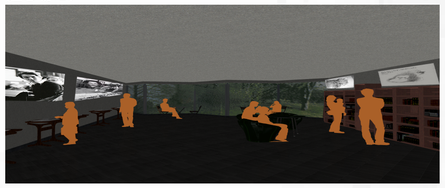
米倉氏が戦時中、疎開する前に福岡城裏に住んでおり、そんな彼と来館者の心の交流の場としてふわしいと思い選びました。
また池が近くにあり建物が水面に写ると
アイラインからでも本のように見えます。





●１Ｆ展示スペース
「来館者の動線を円環に。」
斉加年氏が生きた 80 年を時代や社会を象徴する写真や映像、解説を背景に、その折々の彼の写真や映像、エピソードを紹介。また平面図から読み取れるように展示スペースの動線を円環にさせることで、1934 年からも 2014 年からも辿れる展示とし、来館者の生年から辿るなど思い思いに時代と斉加年氏の生涯を巡る場に。

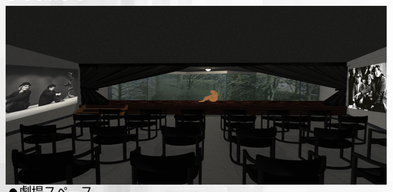
●２Ｆシアタールーム
「４Legs」
生涯の師･宇野重吉氏から「役者は４本の足（舞台、映画、テレビ、ラジオ）で歩け」と言われた斉加年氏はそれぞれの分野で数多くの実績を残す。シアタールームではらそれらの作品などをさまざまな視点やトピックで特集を組み上映。



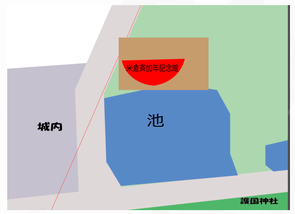
●２Ｆ図書コーナー
「1934～2014」
斉加年氏の著作をはじめ、インタビューなどの掲載紙誌、出演作品のポスター･･パンフレットや台本･原作本、劇団の会葬、当時の演劇雑誌･･･など。また彼が個人的に愛する画家竹久夢二や青木繁の画集など様な関連物で構成する。

●２Ｆ　VR ルーム
「MASAKANE　Views」
例えば氏の「大人になれなかった弟たちへ」などを先端の VR 映像技術で作品化。また氏が愛着した街の場所や風景を散歩者感覚で楽しめる VR を毎年作成していき、変わりゆく街の記録風景としても残していく

●展望スペース
「生きつく街、風景。」
福岡城近辺が生家であった斉加年氏。彼が愛した故郷、街を記念館から望めるようにする。彼が生きた頃の街並み周辺のさまざまなもの写真を年度を付して展示して、福岡城天守閣再建など今の風景を眼下にする中で変わりゆく風景や時に思いをめぐらすスペースになっている。

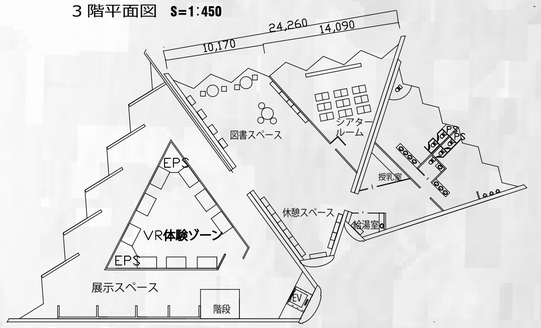


●劇場スペース
「開かれた汎用性。」
劇場内の舞台は、一人芝居からさまざまな演目に対応できるように。ユニット構造などシンプルで汎用性に富んだ、地元の学生劇団やアマチュア劇団の自由な発想や表現ができる場とする。



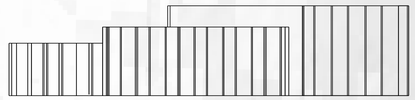
配置図

３階平面図　S=1:450

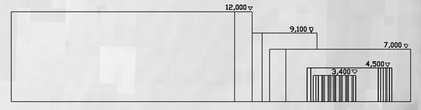


２階平面図　S=1:450

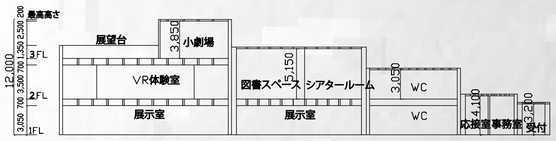
１階平面図　S=1:450



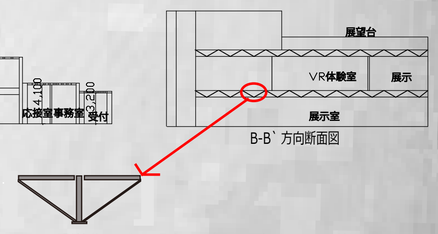
南側立面図 S=1:450



北側立面図 S=1:450

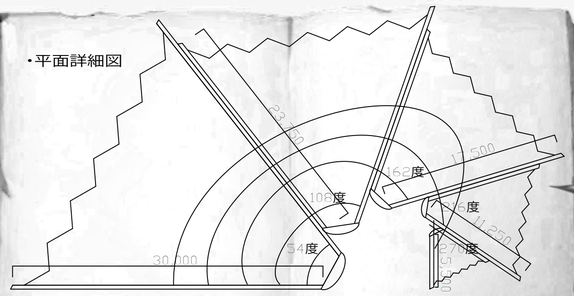


A-A`方向断面図　S=1:450



B-B`方向断面図

・平面詳細図



30 メートルを基準に段々と寸法を短くしていき、それと共に５４度毎に角度をつけていくことでこのような半円で収まる不思議な形を実現させた。

・外観プラン

開いた本が連なったような形にすることで、米倉氏の絵本作家の面を表したとともに、来館者にとって開けた外観となるように工夫をした。

・地域活性化

記念館設立とともに『米倉斉加年演劇賞』を創設し、福岡県内の劇団や地元の芸能などの公演や発表の場として振興を図る地域文化交流の発信場所とする。

・上階の大スパンはトラス梁で合理的にかけ渡す

・参考資料：米倉斉加年著「大人になれなかった弟たちへ。」「道化口上」「今、普通に生きる。」他

・今回のコンペで出会った人々

本提案により写真の貸し出しをしてくださったイラストレーターの森田伸さん・『遺族としてご協力できることがありましたら遠慮なくご連絡ください』と言ってくださった米倉斉加年氏の遺族の方々には本当に助けていただきました、本提案書をもって再度感謝の意をお伝えします。本当にありがとうございました。